学校番号	３０１３

令和５年度　工業科（建築設備系　建築システム専科）

教科	工業	科目	建築計画	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「建築計画」　（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

建築は、常に人間の視点から計画し設計しなければならない。そのために、まず人間の多様性、人間の生理・心理、行動など、人間そのものに対する理解を深める。そのうえで、機能性、快適性、安全性をふまえた建築・都市空間のデザインに必要な基礎知識を学ぶ。

2　学習の到達目標

建築計画に関する基礎的な知識・技術を理解・習得させ、建築空間を合理的に計画・設計するための基礎的能力を養う。建築と環境、集合住宅、事務所、建築設備、都市計画などについての計画に関する基礎的な知識を理解させる。
「建築史」「実習」と関連させることにより、建築空間を総合的・合理的に計画・設計するための知識・技術を理解・習得させる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	建築計画に関する基礎的な知識と技術について関心を持ち、習得にむけて意欲的に取り組むとともに、実際に活用しようとする創造的、実践的な態度を身につけようとしている。	建築計画の概要や基本計画と関連させながら住宅の計画・設計ができる。快適な住宅とは何かを考え、計画図面に表現できる。	建築物内外の環境や、住宅計画の基礎基本的事項を学習し、環境に関わる指標を計算できると共に住宅のプランを様々な観点から計画できる。	建築計画の正しい知識を身に付け必要な事項について自主的に調べながら住宅計画が立てられる。建築物内外の環境についてそれぞれの項目を理解している。
評価方法	学習状況の観察 ノート・プリントの記述・提出状況 出席状況 授業発表	学習状況の観察 ノート・プリントの記述・提出状況 出席状況 授業発表	学習状況の観察 ノート・プリントの記述・提出状況 出席状況 授業発表	学習状況の観察 ノート・プリントの記述・提出状況 出席状況 授業発表

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	住宅の計画	住宅の意義 住宅の目的・種類・構成 ・全体計画 調査・検討項目 敷地・配置・平面・設備計画 ・各部の計画 寝室・居間・食事室・台所 便所・浴室・洗面所 梶室・玄関・廊下・階段 押入・納戸	○	○	○	○	a：建築計画にかかわる、基礎的な知識や技術への関心と，その習得に意欲がある。 b：これまでに習得した知識や技術などを活用しそこで得た知識や経験を基にした発表を行うことができる。 c：建築計画にかかわる知識や技術を、分かりやすくまとめることができる。 d：建築計画にかかわる知識や技術をいろいろな場面で活用できる。	課題プリント ノート作成 定期考査 学習への取り組み 指導内容の理解 出席状況 授業発表・提出
2学期	各種建築物の計画	・集合住宅の計画 全体計画 各部の計画 ・事務所の計画 全体計画 各部の計画 ・小学校の計画 全体計画 各部の計画	○	○	○	○	a：建築計画にかかわる、基礎的な知識や技術への関心と，その習得に意欲がある。 b：これまでに習得した知識や技術などを活用しそこで得た知識や経験を基にした発表を行うことができる。 c：建築計画にかかわる知識や技術を、分かりやすくまとめることができる。 d：建築計画にかかわる知識や技術をいろいろな場面で活用できる。	課題プリント ノート作成 定期考査 学習への取り組み 指導内容の理解 出席状況 授業発表・提出
3学期	都市と地域の計画	・都市と都市計画 ・都市計画制度と都市計画法 ・建築と地域の計画 ・地域の計画とまちづくり	○	○	○	○	a：建築計画にかかわる、基礎的な知識や技術への関心と，その習得に意欲がある。 b：これまでに習得した知識や技術などを活用しそこで得た知識や経験を基にした発表を行うことができる。 c：建築計画にかかわる知識や技術を、分かりやすくまとめることができる。 d：建築計画にかかわる知識や技術をいろいろな場面で活用できる。	課題プリント ノート作成 定期考査 学習への取り組み 指導内容の理解 出席状況 授業発表・提出

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。